
死を分かち合い

ニヤル子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

死を分かち合い

【Nコード】

N3781G

【作者名】

ニヤル子

【あらすじ】

死んで帰ってきた妻の遺体に夫は…

おかえり、ご迷惑お掛けしました、帰って来るはずの妻が開口一番に言う言葉を想像し、芳三は急に心の奥底に激しく吹き荒れる冷たい風を感じた。

底辺から凍える寒さに目の前にやつれた妻の顔、存在に声なき声を求め、聞き続けた音が自分のメモリに一切として再生することがない、思い出せないものとなってしまう、記憶から消したくなかったものが自然と消滅したことに恐ろしく悲しんだ。

死者の靈魂がいまもってこの六畳にも満たない間に漂い芳三から夫だった男から自分の証明を丸ごと精算されてしまったかのように。

「お前よ、喋ってくれ」

頬に触れる指先から冷たい死者の死者だからこそ発することができないあまりに冷たい感覚だった。俺を残してなぜ逝った、頬に触れ彼女だったモノを責めてもなにも反応はなく、死んだ意識だけが機械的にことごとく働いて、死んだ死んだと言い続けるだけだ。

妻だったモノ、心底愛した女の存在が息を奪われ、心臓の鼓動を止められ、血の流れを終えて、いまモノとなったモノに深い愛情が湧き出でた。

お前は俺を残して記憶まで勝手に精算して逝った、それが俺の愛に火を灯したんだ。愛は燃えている。

夫は妻の白装束を肩からゆっくりと剥がし、妻の白い裸体を見つめ、俺が悪いんじゃない。お前もまた望んでいた筈だろ？なあ、そうだろう？興奮の息を溢す。

いきり立った肉茎を妻の秘部にあてがう。

そして、ゆっくりと冷たく死んだ中へと進む。冷たいな死んでいる、

いや…お前は求めていたはずだ。この展開を、生きているお前は。俺を後悔の念に苛まし死んだお前の身体とセックスするという行為に溺れるのを。見ているのだろう？どこかで俺のことを。生きた、意識だけを持って俺を嘲笑っているんだろう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3781g/>

死を分かち合い

2011年1月19日03時04分発行